

佳作

後悔とチャレンジ

福島県福島市立野田中学校

3年 佐藤 美洋

「チャレンジ」この言葉を聞いてどう感じるだろう。明るいイメージだろうか。それとも前向きだろうか。努力だろうか。人によってイメージは違うだろう。私は、難しくて、人生においてすごく重要なことだと思う。

今まで多くの人が、「あのときやっておけばよかった」「もっとこうしておけばよかった」と後悔をしたことがあるだろう。そして特に、チャレンジしてみても失敗した後悔よりも、なにもやらなかった後悔の方が印象に残っていると思う。私も前までは、やってみればよかったと後悔することが多かった。しかしある時、毎回やればよかったと後悔するなら、少しでもやりたいと思ったものは全部やろうと心に決めた。初めは、やりたいと手を挙げたり行動したりするのは、勇気のいることだったし、失敗することや、いろいろやりすぎて大変になることもあった。しかし、「後悔のない人生にしよう」としてからは、毎日が充実していて、キラキラするようになった。

私は中学校に入ってから、ソフトテニスを始めた。最初は楽しくやればよいと思っていたが、だんだん勝ちたいと思うようになった。でも、クラブ所属の上手な人などたくさんいて、なかなか勝つことはできなかった。そのとき、今たくさん練習をしないと絶対に後悔すると思った。そこで、部活とは別で教えてもらったり、友達と自主練習を行ったりした。気付けば、ほぼ毎日、休日は丸一日テニスをするようになっていた。時には、やりたくないと思うことや、周りの人との実力差に心が折れそうになることもあったけれど、少しずつ上達し、勝てるようにもなってきた。

部活の引退がかかった中体連の試合、私たちのペアはクラブチームの人とあたってしまった。初めは相手のリズムで試合が進んでしまい、かなり押されていた。そこで、ペアで、ミスを恐れずに、自分たちのやりたいプレーをしようと話した。その結果、試合には負けてしまったが、点を取ったり取られたりのいい試合にすることができた。涙が出るぐらいすごく悔しかったけれど、自分の力をすべて出し切れて、後悔のない試合だった。こう思えたのも、ずっとチャレンジし続けたからだと思う。しかも、チャレンジしたおかげで、人とのつながりが広がったし、自分に自信を持てるようになった。本当にがんばってよかったし、この時間は一生忘れないと思う。

今は部活を引退したが、テニスを全力でがんばってきたから、受験勉強にも

全力で取り組んでいる。勉強をしていると、難しくて嫌になることや、いい結果がなかなか出ず、悲しくなることもある。でも、あんなにテニスをがんばれたのだから大丈夫だと思えたり、行きたい高校に絶対合格したいと思ったりして、目標を持って勉強ができています。前に努力したことが、こんなにも、自分の力になってくれるんだと思ったし、目標を強く持っているといろいろなことにチャレンジできるとわかった。

ただ、今思い返してみると、私がこんなにもいろいろなことにチャレンジできたのは、周りの人の協力があつたからこそだと思う。まず、家族である。私がやってみようという、いつも

「いいじゃん、やってみな。」

と背中を押してくれた。また、送りむかえや、道具の用意など、私がチャレンジできる環境も整えてくれた。本当に感謝の気持ちでいっぱい。次に友達である。私がやってみようということがあるとき、相談に乗ってくれたり、私も一緒にやってみようかなとずっととなりにおいてくれたりした。つらいときも、友達もがんばっているんだと思え、乗り越えてこられた。なにより、私の考えを、笑ったり、否定したりせずにそばにおいてくれたことがうれしかった。こんな仲間がいて、私は幸せだなと思う。他にも、先生や先輩など、たくさんの人の支えがあつたからこそ、今の自分があるのだと思う。

私はこの経験から、私も、いつでも家族や友達の夢や挑戦したいことを応援できる存在でありたいと思った。周りの人にしてもらってきたことを、私も同じように返していきたい。

「チャレンジ」は何かを乗り越えようとするときに使われる言葉だ。挑戦することは、今までの自分を超越しようとするのだから、当然大変だし難しい。でも、その一歩を踏み出せたとき、きっと自分は、ひと回りもふた回りも成長できる。すてきな未来が待っていると信じている。だから私はチャレンジし続けたい。自分の可能性を広げるために。